

<p>駅西ブロック 第35回ブロック部会 議事要旨</p>	
開催日時	平成29年12月19日（火）午後8時～9時半
開催場所	上十条区民センター「上十条ふれあい館」第1ホール
出席者	<p>【部会役員】阿部部会長（十条仲原一丁目町会長）、上福元役員（十条銀座商店街振興組合理事長）、染谷役員（上十条二丁目町会長）、山崎役員（十条仲原二・四丁目町会長）</p> <p>【事務局】岩本十条まちづくり担当課長、市川、井越、徳田、木下、濱崎、小栗 コンサルタント（まちづくり研究所）：川田、藤巻、小池</p> <p>【オブザーバー】野口区議会議員 十条駅西口地区市街地再開発組合事務局：鈴木、菊池、小笠原</p>
参加者	10名（部会役員を除く）
議題等	<p>議題</p> <p>○十条駅西口再開発事業に伴う駅前広場の使い方について</p> <p>報告事項</p> <p>○JR埼京線（十条駅付近）連続立体交差化計画および関連する道路計画の都市計画決定について</p>
	

議事要旨

-----駅西ブロック部会長あいさつ-----

今日は師走のお忙しい中お集まりいただきまして、ありがとうございます。これより第35回駅西ブロック部会を開催いたします。本日は十条駅西口地区市街地再開発組合の方にも来て頂いておりますので、十条駅西口再開発事業に伴う駅前広場の使い方について、地元の方ならではの忌憚ないご意見を頂ければと思います。その後事務局から、JR埼京線十条駅付近立体交差化および関連する道路計画の都市計画決定について報告等があります。限られた時間ではありますが、スムーズな進行にご協力をお願いいたします。

○ 議 題

-----十条駅西口再開発事業に伴う駅前広場の使い方について-----

■各グループの発表

【Aグループ】

- ・十条固有のイベントである、盆踊り等の祭り、商店街が行っているイルミネーションは今後も続けていきたいのだが、それが引き続き行えるのだろうか。また、広場を使ってイベントを行う際に申請許可を受けなければならないが、警察などに掛け合うことは難しいため、区の方ですんなり許可が降りるような仕組みを作ってほしい。
- ・個人的意見だが、もし駅前広場が使えない場合は、地域の為に再開発ビルの駅前広場内のスペースをどのようにしたら簡単に利用できるのか、そういった条件等も再開発組合から出してほしい。
- ・これからのまちの顔、イメージという視点では、子供たちを増やすという観点が必要だろうという意見が出た。具体的には、駅前に子供が遊べる様な施設や、子育てのお母さんの授乳施設、おむつを交換するための場所などが必要ではないかという意見が出た。
- ・駅前広場にバスやタクシー等は入れずに、補助85号線にモータープールや車が通れるスペースを設けるべきだ。
- ・私は、商店街で活動していて毎年イベントを開催しており、このイベントを楽しみに沢山の人が来てくれている。しかし、フジサンロードの拡幅がされてしまうとイベントができなくなってしまう為、新しい駅前広場でも同様のイベントが開催できるように検討してもらいたい。

【Bグループ】

- ・一番ネックなのは、再開発のために大勢の人間が立ち退きをしなければならないということだ。この会場に地権者がいるかは分からないが、立ち退いた地権者はどこへ向かえば良いのか。多大なお金を使ってこんな開発はやめてほしい。十条というこんなにも良い街は他になく、多くの人はこのままでよいと思っている。

(コンサルタントから補足)

- ・賛否含めて色々な意見が出た。大型店舗が欲しいという意見もあった一方で、そのような建物ができてしまうと商店街も町も潰れてしまう、といった意見も出た。
- ・共通していた意見は、盆踊りは長く続けてきたまちの文化だから残して欲しいという点と、「お富士さん」が素晴らしいという意見があった。そういったまちの文化という観点から、駅前広場だけでなく、大きな目で十条をより良くしていきたいという、皆さんの共通の思いがあった。
- ・広場の検討にあたっては、これだけ大きなボリュームの建物が建つのであれば、平面イメージだけでは把握しづらいため、立体模型で説明して欲しいという意見が出た。

○報告事項

----JR埼京線（十条付近）連続立体交差化計画および関連する道路計画の都市計画決定について----
配付資料及びスライドに沿って、区よりJR埼京線（十条付近）連続立体交差化計画および関連する道路計画の都市計画決定について説明した。

-----質疑応答 -----

【参加者】都市計画で決定された埼京線の高架化の話だが、ここに至るまでに住民の意見をどのように吸い上げたのかをお聞きしたい。以前各町会でご協力いただき立体化についての署名を東京都へ出しているが、その時には構造については何も記載していない。しかし北区議会が「構造については問わないで立体化をお願いします」という議会決議をしてしまった。私たち署名している人たちは過去からの経緯で、当然線路の地下化という大前提の議会決議があったわけで、それに基づいて署名をしている。しかし、いきなり北区議会は「構造を問わない」と議事録に残されている。どうしてそうなったのか説明いただきたい。

もう一点は、73号線は70年間放っておかれた。70年間東京都の都合でやらなかったのであれば、これから70年間は地権者の都合で放置して頂けるような権利や義務が当然許されると思う。住民の考え方はきちんと吸収されているのだろうか。

【北区】

1点目の埼京線の立体交差化についてお答えします。これまでの経緯ですが、平成27年2月に都市計画素案の説明会、平成28年10月に都市計画案の説明会を開催しております。また、その間にも十条地区の様々なブロック部会において報告し、皆さまの意見を伺っています。

区議会については、確かに昭和58年に「地下化促進」の決議をしておりますが、平成26年には「構造を問わない」ではなく、「適切な構造形式により早期に事業化」と決議しております。なお、構造形式につきましては、事業主体である東京都が高架方式と地下方式について比較検討を行い、高架方式が最適であると判断しました。区といたしましては、平成26年の区議会の決議等を踏まえ、東京都の判断を尊重する考えです。

住民の意見をどのように吸い上げたかについては、先ほどご説明した説明会等に加え、区の将来像を北区都市計画マスタープランにおいて定めておりますが、この計画を定めるにあたっては、パブリックコメントを実施すると同時に、北区全域にわたって説明会を開催し、ご意見を伺っています。なお、マスタープラン2000では「地下化を目標」という表現でしたが、マスタープラン2010では「鉄道の立体交差化を実現する」との表現にしています。従いまして、北区ならびに区議会は、それぞれ皆様のご意見を踏まえた上でマスタープラン策定や決議を行っております。

2点目の補助73号線についてですが、補助83号線（岩槻街道）同様に多くの都市計画道路が戦災復興の昭和21年に決定し、それから数十年にわたって制限をかけてきました。これは補助85号線についても同様です。補助73号線につきましては、木造密集地域の十条地域については、早期の防災性の改善が必要ということで取り組んでまいりましたが、東日本大震災を踏まえて、東京都が新たに木密地域不燃化10年プロジェクトを出し、その中で特定整備路線という、今までの都市計画路線と違う位置付けで今回事業化しているということです。かなり長期にわたる将来的なまちづくりで、都市計画道路というものは、10年を見据えて見直し等行っておりますので、その見直しの度に皆様へご説明し、ご意見を頂いて、この計画を継承してきています。今後については次の第五次計画になりますが、また10年を見据えた計画となるので、その都度皆様からご意見頂きながら、東京都全体の都市計画道路のあり方を考えていくこととなります。

【参加者】広場の使い方を上十条二丁目と仲原の町会だけで議論しても意味がないように思える。そもそも駅前広場は誰のものなのだろうか。

また、立体化の話で、詳しくはネットを見てくださいという話だったが、去年の北区民の意向意識調査を読むと、ネットを使える人はまだまだ少ないことが分かる。国の調査でも、ネットから見るのではなく、行政からの文章として見た方が信頼性があるという結果が出ている。そういう調査結果を活かして欲しい。

【北区】十条駅西口の駅前広場については、駅西ブロック部会の区域であるため、本日は区域内の皆様に来て頂きました。また、再開発の都市計画決定前には広く説明を行った経緯があります。今後、具体的に事業化の段階では、主体となる組合とも連携を図りながら広く説明をしていきたいと思っています。また、十条地区まちづくり全体協議会のブロック部会としては、関連する活動状況は幹事会の中で各部長へ年度ごとの活動をご報告し、必要であれば他のブロックでもご報告させて頂きたいと、事務局では思っています。

インターネットについてですが、今回、合わせて窓口もご案内しておりますので、そちらの連絡先にご連絡頂くなど、できる限りご要望に対応していきたいと思っています。全ての方に文書をお送りするには財源も限られていますので、インターネット環境がないような方やご年配の方々については、できる限りご要望に対応させて頂きたいと思っています。

【参加者】駅前広場の面積はどのような計算方式によって決定したものなのだろうか。計算方法や乗降客数など数値について、学術的には様々な計算方式があるが、どの方式を用いたか具体的な説明と算出内容の説明をお願いしたい。

【北区】正確に計算方法等をお答えできる準備が本日はありません。きちんとした回答は次回までの宿題とさせて頂きたいと思います。都市計画決定の時に算出した計算方法となります。

【参加者】回答は求めないがお話しさせて頂く。事業によって大勢の住民の立ち退きを迫り、家を取り上げるなど、住民を犠牲にしないでほしい。このままであれば済む話である。

「長生きするなら北区が一番」と区長は言っていたが、自分が集めた年寄りを追い出してどうするのか。私は、ふるさと納税しているが、北区と東京都に税金を絶対に払いたくないという思いがある。自分の納めた税金でなぜ自分の家が壊されなければならないのか。代替地に行ける人は良い。代替地があったのにみんな売り払ってしまった。

駅前に大きなビルを税金で建てても、高齢者は高いビルまで買い物に行かない。1～2年も経てば十条商店街は全滅すると思う。人が来なくなった商店街は商売できない。十条は変わっていないというが、今も良い方へどんどん変わっている。今やっていることは完全にまち壊しでまちづくりではない。

-----閉会：駅西ブロック部会長あいさつ-----

本日は様々なご意見ありがとうございました。今後も皆さんと、十条駅西地区のまちづくりについて話して行きたいと思いますので、協議会の活動についてご理解とご協力のほどよろしく申し上げます。

次回のブロック部会は3月頃を予定しております。またお知らせしますので、次回もお集まりいただき、ご意見をいただければと思います。本日は、大変お疲れさまでした。

以上